

労働安全衛生・環境保全 活動報告 2009



不二建設株式会社

はじめに

2009年度 当社の取組

◆労働安全衛生活動◆

年度当初の各種安全教育、店社パトロール、安全週間や労働衛生週間の全社パトロールを実施。さらに、各サイトでの活動が、2004年9月からの無災害（休業4日以上）記録を継続する源になっています。

◆環境保全活動◆

建設機械を多数使用する当社の工事では、CO₂の発生を減らすことが求められています。また、工事に伴い発生する粉じんや騒音・振動と言った環境対策も重要です。

年々公共事業が減少していますが、これらの対策や地域貢献活動をしっかり行って地域の方々とのコミュニケーションを取り、工事の施工を喜んで頂けるように努力しています。

また、産業廃棄物の再資源化にも取り組んでいます。

◆安全衛生環境大会◆

毎年環境月間である6月の第一金曜日に上記大会を開催しています。安全・環境のシステムを取り入れている当社では上記の名称で実施しており、協力会社が一同に集まり、新年度の目標の達成を意思統一する場となっています。2009年度は6月4日に開催しました。

◆安全教育◆

年度当初に社員・協力会社を対象に、内外の講師による各種教育を行っています。例年30～40名程参加しています。

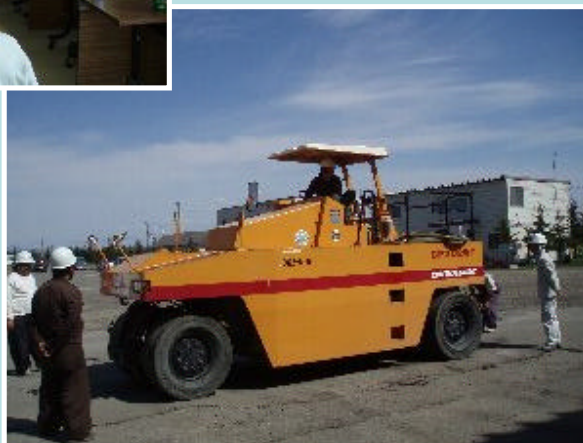
活動の紹介 (1)

特別教育 2009.05.19～21

刈払い機



ローラー 締固め)



活動の紹介 (2)

安全衛生環境大会 2009.06.04

社長挨拶



安全工事表彰



講和 1



講和 2



決意宣言



会場全景



活動の紹介 (3)

全国安全週間に伴う

全社安全パトロール 2009.07.06～08

道北 北見市)－国道39号



道東 清水町)
－国道274号



道南 長万部町)
国道230号

活動の紹介 (4)

現場での 安全訓練」 2009.07

「一般国道39号北見市 豊田付加車線設置工事」



バックホーの作
業半径の確認



AEDによる救急
救命法の訓練



活動の紹介(5)

全国労働衛生週間に伴う

全社安全衛生パトロール 2009.10.02



道北 興部町)
—国道239号



道東 音更町)
—北音更地区



道央 岩見沢市)
大願東地区

労働安全衛生活動

■労働安全衛生の現状

・2009年の全産業と建設業における労災死傷者数は下表の通りです。死者数に占める建設業の割合は35%と相変わらず高くなっています。

・昨年1年間に労災保険を受給した人が54万人、その2割11万人が建設業の事故によるものです。この数字は、交通事故死傷者数92万人に比べ決して小さい数字とは言えません。

・当社では休業4日以上がここ数年起きていませんが、建設業における事故の現状を深刻に受け止め、様々な活動を行い、事故の発生を防止します。

・また、安心して安全に働くために必要な健康な身体づくりを目指し、有所見者の多い現状を変えていくように努力しています。

<労働災害の現状(2009年)>

項目	全産業	建設業	産業別順位
労災死者数	1,075人	371人	1位
労災死傷者数 (休業4日以上)	105,718人	21,465人	2位
労災保険新規受給者数	54万人		
交通事故死傷者数	92万人		

■ 労働安全衛生目標

2009年度の目標を下記のように設定しました。

1 労働災害の防止

- ◆建設機械による無災害記録の更新
- ◆第三者(一般車,歩行者)事故の防止
- ◆ライフライン事故 “ゼロ”

2 交通事故の防止

- ◆スピードダウン,エコドライブの実施
- ◆セーフティーラリーの完走率 70%以上

3 健康増進

- ◆健康管理意識の向上

1. 労働災害の防止

①建設機械による無災害記録の更新

2009年度も災害（休業4日以上）は発生しませんでした。
これで、5年間無災害です。

（ただ、休業4日未満の事故（火傷）が1件発生しました。）
事故が起きないと「起きなくて当然」と思ってしまいましたが、その中安全意識もうすれ……。過去幾度となく繰り返した経験です。事故の発生が「安全意識」の欠如によるものとしたら、これも一種の「ヒューマンエラー」でしょうか？

各工事では、「目標達成管理計画書」を作成し、「作業計画書」を活用した「KY活動」を行い、安全施設や誘導員の配置、立入禁止処置、ローラー等へのバックソナーの設置と言った様々な安全対策を行っています。その対策がきちんと実施されていることを安全パトロールや日々の巡視により確認しました。

ミス犯すのは「人」、それを防ぐのも「人」です。多くの「自」で確認することが大事です。



②第三者（一般車,歩行者）事故の防止

2009年度新たに目標として追加しました。現道を規制して行う道路工事では一般車両による規制車両や作業員・交通誘導員への衝突、またこれ以外での工事では資材運搬車や工事車両、作業中の建設機械が歩行者を巻き込む事故が稀に発生しています。このような事故も意識して取組を行いました。

結果的に事故はありませんでした。対策としては、遠方からも視認できる大型電光表示板や高輝度看板（工事中、片側交互通行、徐行）に加えのぼり旗を設置、また交通誘導員は蛍光色の旗で誘導を行いました。ただ、片側交互通行規制を行っていた時に“一時停止で停止している車両に追突”と言う交通事故が数件発生しました。車間距離を十分とる、また余裕のある徐行運転を行うことで防げた事故であったと思います。

大型電光表示板とバルーンライト



高輝度看板とのぼり旗



蛍光色の手旗



体感プレート



②第三者（一般車,歩行者）事故の防止

歩行者に対しては、歩行者通路を設け、誘導員が付き添って誘導を行いました。

＜歩行者通行帯＞



③ ライフライン事故の防止

2009年度、ライフライン事故はありませんでした。ライフライン事故に結びつく現場も少なく、2005年以来続いた事故がやっと途切れました。

＜架空線に三角旗取付＞



＜地下埋設物の位置確認＞



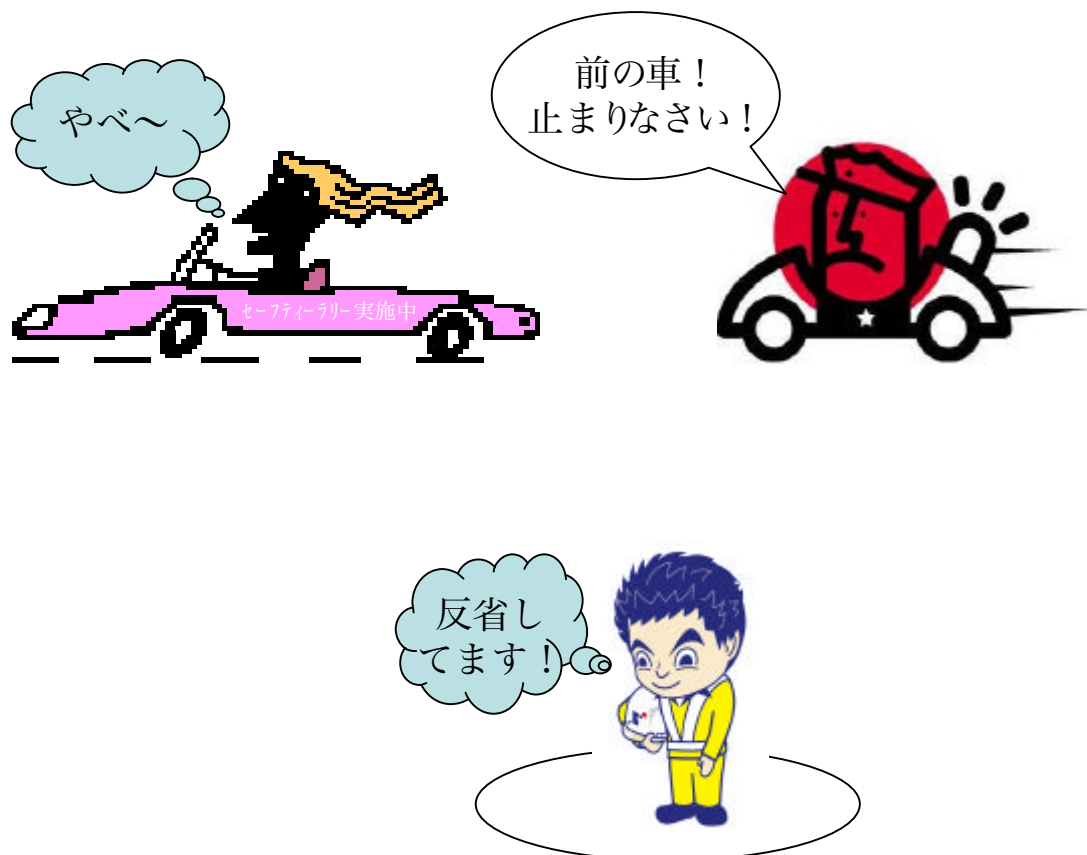
2. 交通事故防止

◆セーフティーラリーに全員参加 完走率 70%

2009年度から、不二安全施工協力の参加が大幅に増えました。参加チームは、不二25チーム、協力会11社39チームの合わせて64チーム。

結果は、不 二	12	48 %
協力会	27	69 %
計	39	61 %

となり、2年連続目標は達成出来ませんでした。協力会は惜しいところまでいきました。それに引き換え当社は…。違反の原因は、相変わらずスピードの出し過ぎです。協力会社に「安全運転を」と言いつつ、何とも残念な結果です。



3. 健康増進

◆健康管理意識の向上

前年度の反省から目標を「有所見者率 から」健康管理意識の向上”に変えました。

全社員に健康への意識をより深く持ってもらうことを目指し、社内ネットワークによる情報提供を行いました。

その結果、

- ・本店・本社での「ラジオ体操」の定着

- ・本社で公共交通機関を利用している人の「一駅二駅歩き」や自転車通勤

- ・退勤後の運動の習慣化

様々な取組が行われています。

また、禁煙を始めたという報告もあります。ただ、健康に気を使わざるを得ない当社の現状＝高齢化」を考えると、まだまだ「意識の向上」が必要な「有所見者率」の現状であることに変わりはありません。



環境保全活動

■ CO2削減に関する日本の現状

2005年の京都議定書の発効により、1990年比-6%を2012年までに達成しなければなりません、2008年度で+1.6%と非常に難しい状況です。

政権が代わり2020年まで8年先延ばしにして、新たに1990年比25%削減する「チャレンジ25キャンペーン」が2010年からスタートしています。

先延ばしせざるを得ないのが、日本の現状です。当社も出来る範囲で活動をして行きます。



＜日本の CO2排出量の現状＞
2008年で1990年比 +1.6%
（「京都議定書」での削減目標 -6%）

■環境目標

2009年度の目標は下記の通り設定しました。

1. CO₂の削減

- ◆オフィス活動（一人当り）
2008年度比－5%
- ◆連絡車の燃費 前年度比5%向上
- ◆合材生産の重油使用量（1t当り）
前年度以下

2. 資源の有効利用

- ◆主要資材（合材・路盤材・生コン）の
ロス削減

3. 社会貢献活動と環境保全活動を通じて 地域社会との連携を深める

- ◆各サイトで協力会社と共同して1件以
上の活動を行う
- ◆リングプル（10kg）、エコキャップを
収集する

●産業廃棄物の再利用

活動状況

1. CO2排出量の削減

●オフィス活動 (一人当り) 2008年度比 5%削減

2008年度と2009年度の比較です。

<総排出量 (1000kg-co2)>

自動車除く 159→169 前年度比 + 9.4%

自動車含む 333→377 前年度比 + 16.8%

<一人当り (kg-co2)>

自動車除く 1,738→1,693 前年度比 - 2.6%

自動車含む 3,645→3,778 前年度比 + 3.6%

事業量 (金額億円)の比較では、

36.1→51.8 前年度比 + 43.5%

総排出量、一人当り共に事業量の大幅な増加に伴い増えてはいますが、かなり低く抑えられています。これが活動の成果と言えるかどうか。



●連絡車の燃費 前年度比 5%向上

<全社での燃費の比較>

2008年度 13.68km/L

2009年度 13.52km/L 対前年度比 - 1.2%

<一台当りの月平均走行距離>

2008年度 2,711km

2009年度 2,642km 対前年度比 - 2.5%

1台当りの走行距離が減っているのが原因と思われます。
簡単に成果の出る目標ではありません。この目標もこれ以上の成果は期待出来ません。

●合材生産の重油使用量 (1t当り) 前年度比 5%削減

合材工場 3ヶ所の集計。

	2008年度	2009年度
合計出荷トン数	22,700t	29,900t
1 当り重油使用量	10.32L	10.70L
対前年比 出荷トン数		31.7%
1 当り重油使用量		+ 3.7%

出荷トン数の増加に伴わない結果となっています。稼働日当りの出荷量が増えてはいるものの今までとは違う結果です。

いずれにしろ、出荷量に大きく左右されるのは明らかです。この数字に関しても、これ以上の検討は難しい状況です。

2. 主要資材ロスの削減

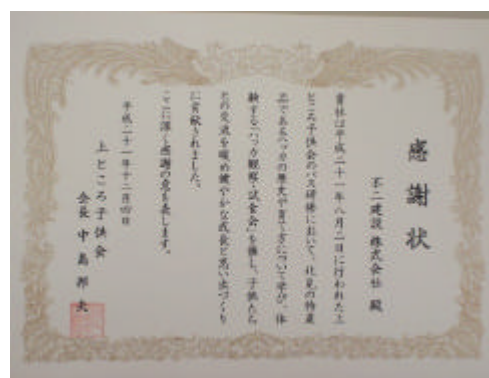
2009年度は各工事で厳しい資材の管理が行われ、主要資材であるアスファルト合材でロスを減らすことが出来ました。この“ロスの減少”は、資源の有効活用という側面は当然ですが、製造、運搬、施工に伴うCO2の排出量を減らす側面も持っており、間接的なCO2の排出量の削減となります。さらに結果として“利益”の増加にも結びついています。今後も大いに取り組んで行きます。

3. 社会貢献活動と環境保全活動を通じて、地域社会との連携を深める

＜社会貢献活動＞

2009年度も営業所、工事で様々な取組が実施されました。

地元の子供会、同業者に発注者も加わった取組 8/2



ダムに溜まった流木を利用したイベントのお手伝い 10/24



現場事務所向いの学童クラブを招待して電飾の点灯式 12/21



創成川通りボランティアサ
ポートプログラム 札幌市)
5月～10月



滝川クリーンデイ 滝川市) 10/21



セーフティーラリー完走賞の寄贈

2009年度のセーフティーラリーの「完走賞」を、今年も 公益財団法人「そらぶちキッズキャンプ」に贈呈しました。贈呈式は2010年6月4日の安全衛生環境大会で行われ、中山社長より本多貴子看護師に完走賞の商品券が手渡されました。

2年続けて完走率の目標が達成できていません。難病とたたかう子どもたちに逆に「頑張って!」と励まされそうです。

2010年度こそ、目標を達成します!

中山社長より
完走賞の寄贈



本多氏による
「そらぶちキッズ」の取組紹介



◆リングプル（10kg）、エコキャップの収集

<リングプルの収集>

全社で12.6kgと目標を上回りました。当社で収集したリングプルは空知建設業協会に持って行きますが、2007年度からの協会の累計は230kgになりました。

<エコキャップの収集>

全社で22kg収集しました。2008年度分と合わせ、受領書は26kgとなっています。

2010/04/19 MON 11:54 FAX

001/001

エコキャップ 受領書

2010年4月19日

分類名：会社

不二建設(株)

木村 容久 様

ご住所：北海道札幌市東区北十八条東1-3-3

FAX番号：011-741-0081



今回受領個数： 10,400 個

累計個数： 10,400 個

ワクチン： 13.0人分

累計のCO2: 82 Kg

※累計のキャップをゴミとして焼却すれば、
これだけの量のCO2が発生することになります

ご協力ありがとうございます。皆様のご厚意を大切に致します。

受取日	数量	個数(約)	備考
2010/04/15	26 Kg	10,400 個	
合 計		10,400 個	

1Kgを400個として計算しています。800個でポリオワクチン1人分が購入できます。

1Kg(400個)が焼却されると3.15KgのCO2が発生します。

①平成19年12月	236,060円	④平成21年 5月	5,378,000円
②平成20年 6月	654,542円	⑤平成21年11月	10,100,000円
③平成20年10月	2,235,300円	合計	18,603,902円

JCV(NPO法人世界の子どものワクチンを日本委員会)へ寄付致しました。

※皆様の受領個数は当協会HPの「キャップ回収実績」に随時、掲載させて頂きます

※お送り頂く際は、全てのキャップをビニール袋などに入れてから梱包して頂きますようお願い致します。

<http://ecocap007.com/>

この受領書がPDFファイルでメール送信できるようになりました

メールでの受信希望の方は当協会ホームページからお申し込みください

<http://ecocap007.com/add/regadd.html>

メールフォームに必要な事項(FAX番号、お名前は忘れずに)をご記入の上、送信ください

ユーザー名：ecocap パスワード：ecomail でアクセスできます

産業廃棄物の再利用 (1)

現在全道4カ所（釧川市、雄武町、浦河町、長万部町）で産業廃棄物中間処理施設が稼働しており、廃材（アスファルトコンクリート殻とコンクリート殻）の受入れと破碎処理による産業廃棄物の再生利用を進めています。

2009年度は、下表の結果となっています。

廃材の発生量にはかなり地域差があり、ここ数年の工事の減少に伴い受入量・使用量が共に減り、再生骨材の活用が停滞気味になってきています。一部の施設では、使用量が少なすぎて廃材が減らず受入れを中止せざるを得ない状況も生まれています。有効な活用が望まれます。

単位 ①

2009年度	廃材受入量	16, 390
	破碎処理量	20, 722
	販売・使用量	23, 430
2010年3月末	廃材保管量	52, 843
	再生骨材保管量	8, 431

産業廃棄物の再利用 (2)→食品リサイクル事業への取組

2009年7月からは、新たな事業として食品リサイクル事業をスタートしました。これは、食品を製造している事業者から産業廃棄物である残渣を受入れ、液肥 商品名 :ひまわり)を製造するものです。

「産業廃棄物の再利用」ということで、建物・製造装置・使用する機械や運搬車両すべてに中古又は既存の物を使用する「リサイクル」にこだわった事業です。

処理量も少なくこれからですが、今後この「ひまわり」の販売と「ひまわり」を使った自社での農産物の生産にも取り組んでいきます。



貯蔵タンク

製造タンク



イメージキャラクター
ハル太郎



材料の食品残渣